

(令和3年02月01日)

< ワンポイントレッスン (実践) >

< 2021年01月の製造工業生産予測指数 >

・1月29日に経済産業省から発表された昨年12月の鉱工業生産指数・季節調整済みは、前月比▼1.6%の低下でした。昨年6月以降回復も11月に続いての低下、2カ月連続のマイナスとなりました。とはいえ、昨年5月(78.7)の大幅な落ち込みに対してV字型で回復した水準。新型コロナショック以前の水準回復に向けて、感染拡大第3波の中、正念場となっています。前年同月比をみても同様です。

・一方、**製造工業生産予測指数**は、1月大幅上昇、2月小幅の低下を予測。

今年1月上旬に実施した、1月、2月の企業生産計画を調査した、生産予測調査の結果。そのまま集計すると1月は対前月比8.9%の上昇を見込む結果としています。

・ただし、1月計画に含まれるバイアスを過去の傾向に基づき補正して、鉱工業生産の実績を推計試算してみると、最頻値は前月比4.4%程度の上昇。過去の傾向では、90%の確率で収まる範囲は2.7~6.1%という計算結果になるとしています。

**鉱工業指数 (2020年12月) 速報**

前月比、前年同月比は%

	前月比				前年同月比	
	季節調整済指数				原指数	
	11月速報 (21.1.18)		12月速報 (21.1.29)		12月速報 (21.1.29)	
生産	94.7	▲0.5	93.2	▲1.6	97.5	▲3.2
出荷	93.8	▲1.2	92.3	▲1.6	97.2	▲3.4
在庫	94.3	▲1.5	95.3	1.1	93.2	▲8.4
在庫率	111.4	▲2.2	113.6	2.0	106.1	▲3.1

**製造工業生産予測指数21.1.29 (季節調整済前月比 (%))**

	2021年1月見込み	2021年2月見込み
前回12月調査	7.1	
今回	8.9	▲0.3
補正值	4.4 (2.7~6.1)	

出所：経済産業省ホームページ

また、上記は、1月当初の計画に基づくもので、1月上旬以降の感染拡大など情勢変化を十分に織り込んだものではないとしています。

下振れリスクがどの程度計測されるかを含めて、確率で予測を発表している補正值に注目です。